

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0173200502		
法人名	特定非営利活動法人 鷹の巣		
事業所名	グループホーム 栞		
所在地	北海道上川郡剣淵町仲町23番2号 (電話) 0165-34-9111		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成19年12月6日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】(平成19年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年3月23日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 5人, 非常勤 7人, 常勤換算	8.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 ~ 20,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低 66 歳	最高 101 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	剣淵町立診療所、剣淵歯科診療所、士別市立病院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

特定非営利法人が運営する1ユニットのグループホームで、ホーム主催の「夏祭り」の開催、高校生や絵本の里の子供達との交流、ホーム内での葬儀の実施など様々な活動を通じて地域に密着した活動が行われ地域住民や利用者・家族の信頼も厚い。また、地域のグループホームのバリデーションの研修会の指導や相談、ネットワーク作りなど中心的役割を担い地域のケアサービスの質の向上に寄与されています。緊急時の対応については、連絡網が機能するのか職員の集合時間や避難誘導時間、利用者の退避時間も実際に把握する取り組みも行われたり、次回は近隣の高校と合同の火災避難訓練の実施も計画され地域や近隣住民との連携も行われています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では、地域住民との協力体制づくりがあげられていましたが、緊急連絡網が実際に機能するのか職員の集合時間や避難誘導時間、利用者の退避時間の把握や近隣の高校と合同の火災避難訓練の実施計画、近隣住民との連携など他に例を見ない取り組みが行われています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価に取り組む中で、職員の新たな気付きや再認識の機会として活かされケアサービスの質の向上に利用されています。また、管理者・職員は日々の申し送りは時間を充分かけ行われ常に課題を検討して、改善の機会や再発防止に取り組まれています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の議事は、常に行政に報告されています。議題については食事について意見交換(食事を委員に実際に食していただき) 消防訓練活動について 前回会議内容の質疑応答 近隣住民との協力体制について 次回開催の運営推進会議の要望や取り組みについて
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) ご家族に定期的に写真付きでお便りを発行して、日常の暮らしぶりや行事参加の様子など報告をしたり、状態変化の際には都度報告がされ意見や不安などが言いやすい取り組みをしています。また、地域の中でその人らしく暮らせるように、常に行政や医療機関とも連携をとりながら家族会や運営推進会議で意見交換されて運営に反映されています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の祭りのカラオケ大会参加や地域のハーモニカ演奏などのボランティア・高校生の体験学習の受け入れ、絵本の里の子供達との交流など日常生活を通じて地域との連携が行われ認知症に対する理解や広報に取り組んでいます。また、近隣住民との日常的なお付き合いや野菜などの差し入れ、ホーム行事への参加など交流促進が行われています。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域で暮らし続けてきた権利・尊厳を尊重して、ターミナルケアを視野に入れたホーム独自の理念をつくりあげ、管理者・職員間で共有されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念の実践にむけて月曜日には理念を唱和して理念の共有に取り組んでいる。また、コンプライアンス、地域貢献を心がけ日々の取り組みの中で実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りのカラオケ大会参加や地域のハーモニカ演奏などのボランティア・高校生の体験学習の受け入れ、絵本の里の子供達との交流など日常生活を通じて地域との連携が行われ認知症に対する理解や広報に取り組んでいます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組む中で、職員の新たな気付きや再認識の機会として活かされケアサービスの質の向上に利用されています。また、管理者・職員は日々の申し送りは時間を充分かけ行われ常に課題を検討して、改善の機会に取り組まれています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員については、家族会代表、自治会長、児童委員、民生委員、法人理事及び管理者・職員で構成されホームが提供する食事について実際、委員に食していただき具体的な意見を求めサービスに活かされている。	○	特筆すべき点として、運営推進会議の議事については、毎回行政に法人自らすすんで報告をしています。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人及び管理者は、行政との連携の重要性について理解し、日々取り組んでいる。また、法人は地域のグループホームのネットワーク作りや指導・助言などの要の役割を担い地域のケアサービスの質の向上に先駆的な役割を果たしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族に定期的に写真付きでお便りを発行して、日常の暮らしぶりや行事参加の様子など報告をしたり、状態変化の際には都度報告がされ意見や不安などが言いやすい取り組みをしています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で意見を表せる機会を設けたり、来訪時には気軽に話せる雰囲気づくりに取り組んだり、苦情相談窓口を明確にして気軽に意見や苦情・相談ができる体制を心掛けそれらを運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職者は殆ど皆無で利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるようになっている。また、法人は職員の福利厚生にも力を注いでいる。職員の力量も高く明るいのが印象的でした。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は、管理者や職員を段階に応じて育成していると共に法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	○	特筆すべき点として、ケアサービスへの取り組みの質は非常に高く他施設の見本となる取り組みが随所に見られた。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域を代表するグループホームのひとつであり、ネットワークの要の役割も担い地域のケアサービスの質の向上に先駆的なグループホームである。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に根ざしたグループホームであり、利用者及び家族の信頼は厚いことがアンケート結果でも証明されている。また、職員の申し送りの時間もゆったり多くとられ利用者・家族の不安を解消する取り組みや、場の雰囲気に馴染めるよう良く相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者と一緒に食事の準備や後片付けをしたり、感謝の気持ちで共に日常生活を過ごしている様子が伺えました。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を尊重して、散歩やドライブなど積極的に外出の機会を多く作ったり、歌唱などの趣味への支援や食事の準備、食の嗜好の把握など取り組みがされています。また、町営の銭湯にも出掛け職員と一緒に入り背中など流し合っています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを行い介護支援専門員の適切な監理のもとに、利用者、家族の希望や医師からの助言・情報や職員からの意見を取り入れ具体的な介護計画となっている。また、センター方式を採用しています。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月カンファレンスを実施して、職員全員で介護計画書の見直しと評価を実施しています。また、利用者・家族の要望や利用者の状態変化に応じて都度、現状に即した介護計画の見直しが行われています。	○	特筆すべき点として、記録の取り方とまとめ方が他に類を見ないほど工夫されている。また、日々見直しが行われ進化している。P - D - C - Aのサイクルが機能している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や要望のある場合には散歩や買い物など柔軟に支援を行っている。また、ドライブや町営の銭湯にも出掛け職員と一緒に入り背中など流し合っています。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○ かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	利用者をよく知る看護職員が身体状況を常に把握している。また、協力医療機関や利用者それぞれの主治医との連携で気軽に相談できる医師が確保されて、状態変化などについても適切な医療が受けられるよう支援されている。		
19	47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、理念にも盛り込まれ職員間で共有される取り組みが行われている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	コンプライアンスへの対応した取り組みが行われている。また、利用者一人ひとりの尊厳やプライバシーを尊重した取り組みが行われています。		
21	52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にして、散歩や畑仕事、食事の準備・後片付け、歌唱やドライブ、行事参加、地域のボランティアの演奏会参加、町営浴場での入浴など本人の希望やペースに沿って支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。また、和やかな雰囲気の中で身体機能の維持・向上が出来るように配慮されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めずに利用者の希望に応じて対応している。また、町営の銭湯にも出掛け職員と一緒に入り背中など流し合っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌を歌うレクリエーションや食事の準備・後片付け、外食や買い物、心身のリフレッシュや気分転換のためのドライブなど外出の機会も多くつくられている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の身体機能や希望に応じて、買い物や散歩、町営温泉、ドライブなど気分転換や心身のリフレッシュができるように積極的に外出ができるように支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や日中玄関は、鍵をかけずに自由に入出入りが出来るように取り組んでいる。また、利用者が外出する時は、職員が見守り安全面で配慮されています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	緊急時の対応については、連絡網が機能するのか職員の集合時間や避難誘導時間、利用者の退避時間も実際に把握する取り組みも行われたり、次回は近隣の高校と合同の火災避難訓練の実施も計画され地域や近隣住民との連携も行われています。	○	特筆すべき点として、訓練の都度消防署に報告が行われ、日頃より協力体制が得られるように取り組みが行われていると共に地域・近隣住民との協力体制が日々緊密に得られるように取り組みが行われています。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員と利用者が楽しんで食事を摂り微笑ましい食事風景でした。また、具体的な水分・食事摂取量が記録され、栄養バランスやカロリーについてもおおよそ把握され支援されている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルには、高校生が栽培した赤や白のシクラメンの花が数多く飾られていたり、椅子やテーブル、ソファが配置され一人になったり利用者同士談笑や歌などのレクリエーションが楽しめるスペースが用意されている。また、二階は広く家族の宿泊や健康診断、会議等ができる部屋も用意されている。窓からは田園風景や新緑・紅葉など季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、広く無料の介護ベットが用意されていたり、仏壇や使い慣れた家具、ソファなどが持ち込まれ安心して過ごせる場となっている。また、利用者一人ひとりの思いが伝わる空間作りとなっている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。